

研 究 分 野	赤潮・貝毒	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研 究 事 業 名	貝類生息環境プランクトン等調査事業(貝毒発生監視調査)		
予 算 区 分	受託研究(青森県)		
研 究 実 施 期 間	H8～H24		
担 当 者	高坂 祐樹		
協 力 ・ 分 担 関 係	(社)青森県薬剤師会衛生検査センター・青森県水産振興課		

〈目的〉

青森県沿岸域における貝毒原因プランクトンの出現動向並びにホタテガイ等二枚貝の毒化を監視することにより、二枚貝の水産食品としての安全性確保に努める。

〈試験研究方法〉

平成 21 年における貝毒モニタリング調査海域図を図 1 に示した。

陸奥湾全 8 定点において水温、塩分等の観測及び渦鞭毛藻類の同定、計数を周年定期的実施した。

二枚貝の貝毒検査を、陸奥湾 2 定点及び関根浜定点では周年定期的実施し、その他の海域では出荷時期に合わせて実施した。

国内公定法であるマウス毒性試験による貝毒検査を、(社)青森県薬剤師会衛生検査センターに委託した。

〈結果の概要・要約〉

1 貝毒原因プランクトンの出現動向

1) 麻痺性貝毒原因プランクトン

例年同様、全く出現しなかった。

2) 下痢性貝毒原因プランクトン

D. fortii の最高出現密度は、野内定点で 245cells/L(平成 20 年は 80cells/L)と前年の約 3 倍、野辺地定点で 130cells/L(同 95cells/L)と前年より増加した。

D. acuminata の最高出現密度は、野内定点で 65cells/L(同 120cells/L)と前年より減少、野辺地定点では 50cells/L(同 55cells/L)と前年と同程度であった。

D. mitra の最高出現密度は、野内定点で 135cells/L(同 285cells/L)と前年より減少、野辺地定点では 210cells/L(同 110cells/L)と前年より増加した。

2 ホタテガイ等二枚貝の毒化状況

1) 麻痺性貝毒

全海域、全対象種ともに出荷自主規制の基準値未満であった。

2) 下痢性貝毒

平成 21 年のホタテガイ等の下痢性貝毒による毒化状況を表 2 に示した。暖流系海域の付着性二枚貝及び陸奥湾西部海域のホタテガイで毒化が確認された。

陸奥湾西部海域のホタテガイは 5 月 19 日～6 月 8 日の間に 3 回マウス毒性試験により貝毒が検出され、毒力はいずれも 0.05～0.1MU/g(可食部)、出荷自主規制期間は 5 月 21 日～7 月 2 日の 42 日間であった。暖流系海域の付着性二枚貝は 5 月 25 日と 6 月 1 日に貝毒が検出され、毒力はいずれも 0.05～0.1MU/g(可食部)、出荷自主規制期間は 5 月 28 日～9 月 10 日の 105 日間であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

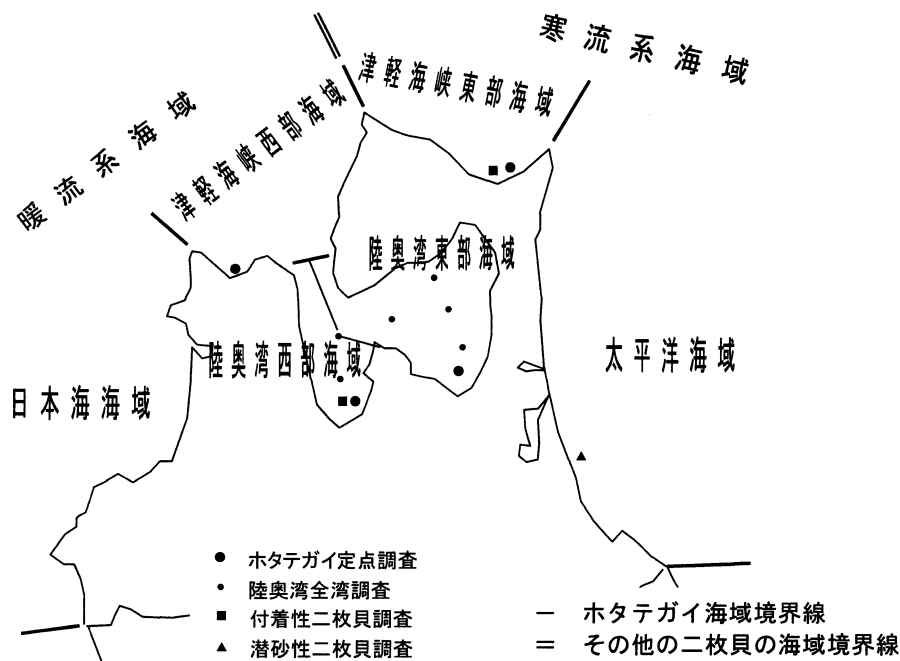


図1 平成21年の貝毒モニタリング調査海域図

表1 平成21年の主要な *Dinophysis* 属の出現状況

貝毒プランク トンの種類	海域 (場所)	初期出 現月日	終期出 現月日	最高出現				
				密度 (cells/	月日	採取層 (m)	水温 (°C)	塩分 (PSU)
<i>D. fortii</i>	陸奥湾西部 (野内)	4/27	10/13	245	5/11	30	9.9	33.56
	陸奥湾東部 (野辺地)	1/13	9/14	130	6/29	33	12.4	33.70
<i>D. acuminata</i>	陸奥湾西部 (野内)	1/6	11/9	65	9/7	5	22.3	32.98
	陸奥湾東部 (野辺地)	1/13	10/13	50	4/8	5	7.6	33.74
<i>D. mitra</i>	陸奥湾西部 (野内)	7/17	11/9	135	8/17	20	20.5	32.99
	陸奥湾東部 (野辺地)	8/3	9/14	210	8/17	20	19.0	33.10

表2 平成21年のホタテガイ等の下痢性貝毒による毒化状況

生産海域	貝種	貝毒	最高毒力	出荷自主規制期間
		検出期間	(MU/g:可食部)	
陸奥湾西部海域	ホタテガイ	5/19~6/8	0.05~0.1	5/21~ 7/2 (42日間)
暖流系海域	附着性二枚貝	5/25~6/1	0.05~0.1	5/28~ 9/10 (105日間)

〈今後の問題点〉

特になし

〈次年度の具体的計画〉

引き続き計画どおりに調査を行い、毒化原因プランクトンの出現動向及びホタテガイ等二枚貝の毒化を監視する。

〈結果の発表・活用状況等〉

貝毒速報等で関係機関等に情報提供し、平成21年度東北ブロック水産業関係研究開発推進会議海区水産部会貝毒研究分科会で発表した。